

飲水思源

町長 松岡市郎

映画監督、菅原浩志氏の作品「ほたるの星」から

東川町文化芸術招へい委員会（長澤義博会長）が、札幌市出身の映画監督、菅原浩志氏を招へいしてほたるの星の上映会を開いた。350人以上の人々で会場はぎゅぎゅと詰まっていた。ほたるの星も山口県から実話を映画化したものだという。地域の小学生などが実に生き生きと役を演じている。

主人公は新人の教師と子供たち。初任する学校で子供たちと協働でホタルを飼育、放流する話である。心に深く沁み込んでくるものがいくつもある。

それは地域の人々の温かさや家族愛の大切さ、教師と担任先生が一体となって取り組む姿勢の大切さ、夢をもって努力する大切さ、人々の「Wa（話、和、輪）」の大切さであり、やる気を起こすことの大切さ、環境の大切さ、命の大切さ、自然の厳しさなどである。視覚と聴覚を通じて、大切なことを学ぶことができる映画の意義は大きい。

最近、未成年の人たちが「殺人」という信じられない凶悪な犯罪を起している。なぜだろう。

かつては農家どこにでも飼育動物がいて、必ず別れの時がやってきた。私たちは、この別れを通じて「命」の大切さを体験したものである。今、学校では児童が動物を飼育しているところがある。飼育を通じて学ぶ体験は、子どもの成長過程にとって大切なものを学ぶことにつながっているだろう。もちろん命の大切さも体験することになる。そして映画は、実際の飼育体験をすることが難しいという場合であっても、映像という限られた疑似空間の中で模擬体験を感じることができる。映画を通じて、親子で大切なものを学ぶ鑑賞会が毎年あっても良いと感じた。

さて、地方創生が叫ばれる中で、菅原監督は地方発の映画、地方から都市へ向かっての発信が必要、と説く。女優の高橋恵子さんも北海道出身、などと北海道が大好きな俳優などがたくさんいるという。地域が熱くなる北海道発の映画を作ろうと夢が膨らんだ。努力したいものである。

悲嘆の門 上・下 (一般書)

宮部みゆき：著 毎日新聞社：刊



日本を縦断して死体を切り取る戦慄（せんりつ）の殺人事件が発生した。人々が噂する“それ”がネット上の噂を追う大学1年生、孝太郎と退職した刑事、都築の前に姿を現した。「輪（サークル）」と呼ばれる異世界から、それはなぜ現れたのか。目的は何か？ ミステリーを超えファンタジーを超えた宮部みゆきの新世界、開幕。

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



ほたるの星 (DVD)

出演：小澤征悦、山本未来 販売元：角川書店



都会で働いていた主人公の三輪元は、小学校時代の恩師にあこがれて教員を志していた。何度も教員採用試験を受け、ようやく念願かなって山口県の小さな小学校に赴任する。クラス担任を受け持ち、そこで複雑な家庭環境で心を閉ざした少女、星比加里と出会った。ある時、ふとしたことをきっかけに、クラスでホタルを飼育することに。比加里もホタルの飼育を通して心を開いていく。その時ホタルを放流する予定の川で護岸工事が行われることが分かり、子供たちと一緒に川を守る運動をはじめた。(101分)

宮沢賢治「旭川。」より (絵本)

宮沢賢治：原作 あべ弘士：文・画



大正12年夏、旧樺太(サハリン)へ向う旅の途中に宮沢賢治が降り立った旭川駅。そしてその日の昼、再び賢治が出発するまでの短い時間、辻馬車を走らせて書いた一篇(いっぺん)の詩。早朝の朝もやの中、旭川のまちはすでに起き始めていました。その様子は、賢治の目にどこか異国のように映ったのでしょう。旭川在住の絵本作家がその詩をもとに描いた創作絵本。